

つらい時は 運がたまる

コメディアンのお本銀一さんは ^{かん}運の流れにフイズよくご存知のちでした。

銀ちゃんが言うことには 運がたまる時と運が逃げていく時があるとのこと。

つらいことがあった時は 運がたまるとうです。

いじめられたり、人に嫌なこと言われたり、目まぐるしく働いたり、めっちゃくちゃ努力したり... そんな時を過ごすと後から大きな運がやってくるとうです。

しかし そんな時に文句を言ったり、人を恨んだり、マイナス言葉を言うと せつかくの運も 逃げていくとうです。つらい時は しっかり 運をためたいものですわ。

例えばこんなケースでも

自動車事故は誰もが嫌であり、つらい時です。そんな時は 流れに任せて事故解決にあたるのが 運をためることになるでしょう。

相手に厳しく攻撃したり、保険会社に無理な請求を言ったりすると 運が逃げていくこととなります。

例えば ここで 保険金をタダく受け取れることが出来ても 運が逃げてしまったので、後々大きなお金を手にするチャンスは無くなります。結果としては損することになるでしょう。 運を味方につける生き方がおすすめですよ。

あ地蔵さんだよ

Vol.132
2015年7月

ありがとう ありがとう

暑さの お見舞い 申し上げます。



あなたの保険の相談役
作者: 鳥越介順

何いっしょに保険を選びましょうオフィス鳥越

運も意識する生き方

金欠ちゃんのお話のように私も日々運の流れを意識して、そして運に頼って生きています。というも人生を左右するのは 半分以上は運の影響のように思えるからです。

日々 運を意識していると 運が逃げる瞬間や 運がたまる時が何となく感じられたりします。

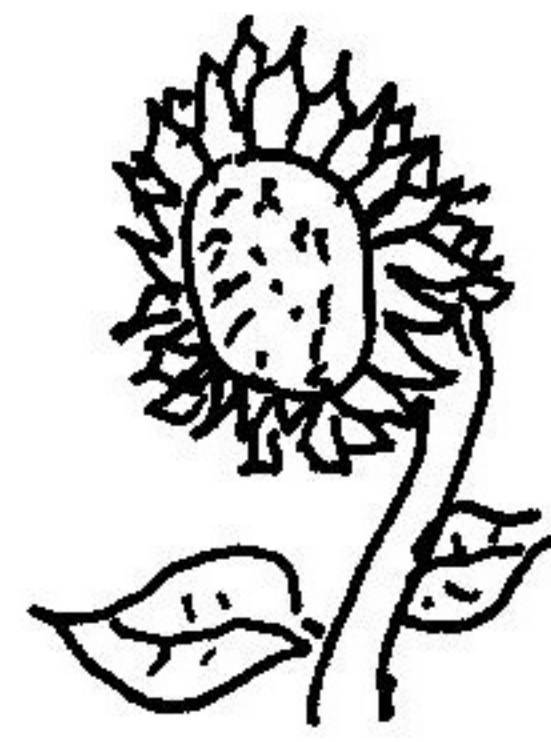
目の前にいる人も

「うわぁ〜 運をためてるなあ」

「もったいない!! 今、運が逃げたあ〜」

と見え始めるから不思議です。

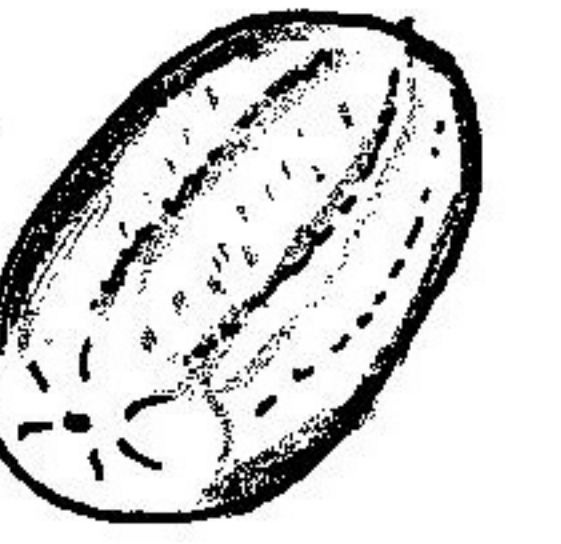
太きゅうりの思い出



私は 食べ物で苦手なものが1つだけ...

それは 今が旬の太きゅうりなのです。

その太きゅうりには 思い出があります。



私が小さいころ 荷車を引いて野菜を売るおばあさんが 我家の外の空スペースに荷車を置かせてもらって おれにいつも 売れ残った野菜を玄関に置いていく。その野菜の中にはいつも 太きゅうりがあり、我家の夕食には毎日太きゅうりのあんかけ煮が登場する。調味料も充実していない時代のあんかけ煮は かなりマズかった。

厳しい父だったので 食べものの好嫌いは言えずがまんして食べる。食べ物を粗末に扱えない時代なので みんなが完食。そして 次の日もまた 玄関には 太きゅうりが置いてあるのです。今もその光景は 忘れられません。

ある朝、家の中で一番に 玄関の太きゅうりを見つけた私は その太きゅうりを隠して 後で 怒られた思い出も...

がんばれ! ママさん!!

今の世の中で一番忙しい人は 総理大臣ではなく 子どもを持つ働くママたちだろう。時代の流れが仕事と家事にかえり 運転手という役割を任う。ほとんどのママたちが「毎日 送り迎えばかりやわ〜」と嘆いている。いつの頃からか 子どもの塾や習い事やスポーツの送り迎えを親がするように なってしまった。私の妻も 夕いときは 年間3万kmも 走ったことを思い出します。

がんばって!! ママさん

今から夏休み!!

さらに応援したいと思います。